

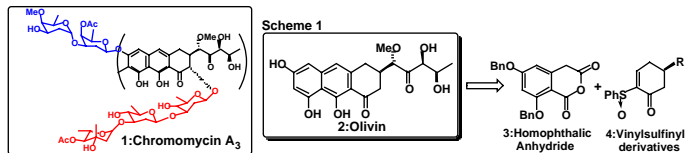
31【P1】I -011

Olivin の全合成研究

春田 剛位¹, ○渡辺 恭一¹, 井本 修平¹, 佐々木 茂貴¹ (¹九大院薬)

【目的】Chromomycin A₃ (CRA₃ 1)は抗癌作用を有する抗生物質であり、DNA の GC-rich な領域に結合する分子として知られている。我々はアグリコンモデル化合物が優れた DNA 結合特性を実現できる可能性を示した。そこで、その類似体への展開が容易な新規合成経路を検討するとともに、その一環として天然物 CRA₃ のアグリコン部(olivin)の全合成を検討した。

【方法・結果】中心の環状骨格の構築は、ホモフタル酸無水物(3)とビニルスルフィニル体(4)とによる[4+2]環化反応を利用する事にした (Scheme1)。北らが報告した条件 (強塩基 NaH、加熱)¹⁾ を検討したが目的の環化体は低収率でしか得られなかった。そこでレイス酸を用いる条件を検討したところ大幅に収率を改善する事ができた。本発表では、本反応を用いた olivin の全合成について報告する。



1) Y. Kita *et. al.*, *J. Org. Chem.*, **65**, 89-95(2000)